

ベネッセコーポレーション 高校事業部 宮本 忠さん（平成6年度入学生）



今回のOB紹介は、ベネッセコーポレーション高校事業部の宮本忠さんです。

宮本さんは、平成六年に入学、総合科学部生体行動科学コース（現行動科学プログラム）を平成九年卒業されました。

自分の可能性を自分で

決めつけないで！

大学生生活

卒論はどんなことをしましたか？

私の卒論は、臨床パーソナリティ分野（注）の人間の対処療法に関する研究です。この研究テーマにしようと思っただのは、パーソナリティと対処療法の相関性やストレスに関する研究に興味があったからです。

実験では、ストレッサーとなる刺激を被験者に与えて、刺激に対する被験者の対処行動を調査しました。被験者八〇人ぐらいに実験をして、心拍数や脈拍を計測し、質問紙などを用いて、ストレスとその対処療法に見られる因果関

係を研究しました。

八月の下旬に卒論の中間発表会があったのですが、その発表会にデータを揃えてポスター発表をすることが、必須で課せられていたため、就職活動をあまり長く続けられませんでした。ですが、卒論はあまり煮詰まらずにできたと思います。やらなければ卒業できないというプレッシャーもありましたが……（笑）。

卒論の思い出を教えてください

最初の頃はなかなかやる気が高ぶらなかつた時期も続いたのですが、先生や先輩、同級生など周りの環境にも恵まれて、刺激され続けたこともあり、最後まで頑張ることが

できたのではないかと思います。研究室にこもりきりになった時期もあって、四年間の中で一番悩んで、試行錯誤した時期でした。大学生活の集大成として、卒論制作に取り組めたことで、大学に入った意義があったのかなあ……と実感できたと思います。自分の中で、強烈に残っている大学時代の思い出として思い浮かぶのは、やっぱり卒論でしたね。他に楽しい思い出もたくさんありますが。内容云々よりも、卒論という試験を乗り越えることで、達成感を得られることができたので、卒論は自分の中で印象に残っていますね。

総科で良かったと思うことは？

みなさんもそうだと思いますが、様々な人たちとのふれ合いを経験できたことだと思います。総科は、いろんな価

◎B紹介

価値観や思いをもった人が、文系・理系問わず集まってくる場所であり、持っている意見をぶつけあう風土があると思います。これは社会に出たら、ごく普通に見られる光景ですよ。私は高校が男子校だったということもあり、同じような価値観をもった人達とつき合うことが多かったのですが、総科に来て覆されました。大学の入学当初は、自分から積極的に話しかけるタイプではなかったのですが、周りの友達が話しかけてくれたので、自分も話すことができましたし、自分の価値観と違う人とも仲良くなれました。総科には様々な意見や個性を尊重する雰囲気もありますし、改めて総科は懐かしく感じますね。

大学生生活でやってあげれば良かったと思うことは？

他学部生との交流をもっとしておけばよかったと思います。学内のクラブやサークルにも入ろうと思った時期はあったのですが、結局入りませんでした。入学当初に感じた「総科の居心地の良さ」もあり、他の学部まで足を伸ばさなくても、総科の中で十分に楽しめると思ったからです。先輩方が優しくしたこともあり、実際に楽しめましたね。

総科中心となった大学生活自体は、マイナスにとらえていません。しかし、もっと行動範囲を広げていたら、自分の可能性も広がったかもしれませんね。

総科の最初の思い出で印象に残っているのは、新入生ガイダンスです。時間割の作り方を講義室で先輩方が協力しあって、手取り足取りアドバ

イスしてくださったのを覚えています。私自身も、二年のときにオリキャンのフェローとして後輩を迎え、三年でも企画のお手伝いをしていました。これだけでも、総科の中で、十分大学生活を楽しく過ごせたのではないかな？と思います。ですが、今思えば総科以外の領域にももっとチャレンジできたら良かったなあと感じますね。

大学で一番苦労したことは？

英語の論文を読むことでしたね。英語は高校の頃からずっと不得手でした。

卒論の研究テーマを組み立てるときに、最新の研究論文を読む必要があったのですが、もちろん世界中で研究が行われているわけですから、国内外の論文を読まなければなりません。まずは、三〇〜四〇本の論文を読み、その中

から、自分がしたいと思う研究に関わりが深そうなものを抽出して、最終的には十本程度の論文を自分の研究に取り入れました。インターネットも普及していなかったため、論文を探すだけでも大変でした。

また、論文によって英文の難易度も全然違うので、困惑しましたね。大学に入ったばかりの一年生の時、英語は単位さえ取れば良いと思っていましたが、甘くはなかったです。一〜二週間を英語論文だけに費やしたこともあり、英語には苦労しました。苦手意識があると、なかなか英語を読む力も伸びないんですね。英語論文を要約してプレゼンを行う「雑誌会」(注)にも参加しつつ、頑張りました。英語は、地道な努力が必要だと思います。

ベネッセコーポレーション 高校事業部 宮本 忠さん（平成6年度入学生）

アルバイトの仕事

警備員のアルバイトを長く続けました。ガードマンや駐車場整理などですね。仕事自体はそれほど難しいものではなかったのですが、よい経験をするのができたように思います。例えば、駐車場整理をしているときは、クルマを停めようとしているお客さんの気持ちや行動パターンを察して立ち振る舞いができるようになったり…。一日中立ちっぱなしは大変でしたけどね。

生体行動科学コースの仲間と の思い出は？

私の学年の生体行動科学コースのメンバーは、みんな個性が豊かで、意見を戦わせることも多かったように思います。

普段は一緒に飲み食いしている友達であっても、研究室

に入ると、友達意識じゃなくて、真剣に問題と向き合うようなメリハリがついていました。そんな雰囲気良かったですね。

仕事

仕事内容は？

今は進研模試などの教材を活用されている学校に対して、ネット環境で教材のデータ受信や分析ができるシステムの開発や、WEBによる情報提供の設計を行っています。進路指導（進学・就職など）について学校が抱えている課題を解決するための教材・サービスを提供することが事業の根幹です。顧客は主に学校の先生です。

一昨年末までは進研模試の問題制作を担当していました。当時は物理を中心に、理科の

編集担当を任されていた。進研模試は受験した生徒が振り返って終わりではない教材です。先生と生徒の間のコミュニケーションを担うことで、その効果が最大限に引き出される教材だと考えています。

この会社に入ろうと思ったきっかけは？

社員に対して優しいイメージがあったのと、福利厚生が充実していたことです。また、社員一人一人の仕事に対する姿勢を理解し、社員全体の風土づくりを充実させている会社だと思ったからです。そして、総科という環境で学んできた自分を受け入れてくれるような、柔軟性のある会社だと思いました。大学で、広大卒の先輩社員が学内で就職説明会を開催してください、それに参加しているいろ

と話を聞いたことも大きな要因ですね。

就職活動は？

どんなに才能や仕事のスキルがあったとしても、会社の価値を高めてくれないような人は採用されにくいと思います。単純に、この人と一緒に仕事をしたいと思えるような人、人間的な魅力を感じるような人が採用されるのだと思います。これは、どこの採用試験でも同じことが言えるのではないのでしょうか。「倍率が高い＝難しい」とは限りません。どれだけ自分がどんな人間かを会社にアピールできたかによるのだと思います。

仕事のやりがい？

信頼できる仲間と「志」をともにできることだと思います。仕事において、一人で

OB紹介

きることは限られていますよね。自分のできることでできないことを理解して、自分一人でできないことは仲間の協力を仰ぎ、助け合いながら仕事を進めていくわけですが、目標に向かって、切磋琢磨できる仲間がいることは大きいです。きつくて、大変な仕事だけど、お客さん（高校の先生）の期待に応えたいと思うと、力が湧いてきます。自分の作った試験問題を数万人の受験生が解いているということと考えると、責任感を感じると同時に、達成感や社会に貢献できたという誇りも生まれますね。

仕事をやっていて苦労したことは？

配属先の変更ですね。入社三年目で東京に転勤し、まったく異なる仕事を担当しました。受験が終わった進研模試

の答案を預かって、期限内に採点を終えるまでの工程を管理する仕事です。答案枚数が関東地区で三学年合わせたら、二〇〇〜三〇〇万枚に及びます。一枚でも失くしたら大問題なので、とても緊張感を感じる仕事でした。品質や納期に関する問題や、スタッフのマネジメントなどについては、試行錯誤しましたね。一時期は、仕事に対して自信を喪失した時期もありましたが、担当した二年間、なんとかやり通すことができました。

いろんな仕事を経験することで、自分の考え方も洗練されてくると思います。仕事においても苦労することが、結局は自分のためになるんですね。失敗することもあるけど、失敗を恐れていたら何もできません。与えられた環境を受け入れ、挑戦していくことが大事だと思います。

総科の後輩に対してメッセージをお願いします

いろんなことに関して「無茶」をしてほしいと思います。自分の限界を自分で決めつけなくてもいい。総科生だからという考え方にとらわれなくともいい。社会に出たら、総科生とか広大生とか、そんなに関係ないですからね。自分の可能性を自分で決めつけないでほしいです。自戒も込めて……自分のやれることを考えて（自分の価値観とは違うことでも）、やっていければ、総科で過ごしてよかったと思えるのではないのでしょうか。

(注) 臨床パーソナリティ分野(宮本さんの研究室)

人の心の問題について、心理学・行動科学の観点から実証的な研究を行っています。特に不安障害やうつ病に罹患するメカニズムやそれを治療

する方法についての研究や、ストレスを喚起する個人要因・社会要因の分析とストレス・コントロールに関する研究を行っています。

雑誌会

海外論文の内容をB4用紙二枚程度にまとめたレジュメを作成（必要に応じてグラフや表の作成なども）し、その内容について三〇分でプレゼンをします（二〇分発表、一〇分質疑応答）。前期は行動系の四年生が、後期は三年生が、毎週二人ずつぐらいでスケジュールが組まれています。講義室に行動系の教授陣全員、院生全員、三年&四年生全員、二年生は有志、で参加していました。

(担当 20生 竹之内 孝太
(取材協力 19生 桑田 雅美)

JRサービスネット広島 柴崎 弘美さん（平成15年度入学生）



今回のOG紹介は、JRサービスネット広島で総務、品質管理を担当されている柴崎弘美さんです。

柴崎さんは、平成一五年度入学、総合科学部環境共生科学プログラム（現 自然環境プログラム）を専攻、バドミントンサークルに所属し、平成一八年度卒業されました。現在は、JRサービスネット広島に就職され、総務・管理の仕事で広島県、山口県のJR構内の物販や飲食店舗経営に携わっております。

向き不向きよりも前向き

できるかどうかよりやりたいことを

大学生活

一番熱中したことは？

自宅生だったため、はじめはサークル等には入ってなかったんですが、三年生になってから高校時代にやってきたバドミントンのサークルに入り、熱中していましたね。

それからアルバイト。お金がないとやりたいことが何もできないので、もちろん勉強に支障の起こらない程度にですが。

一番しんどかったのは？

やっぱり大学四年生のときですね。就職活動があったし、そのあとは卒論があったし。特に卒論は、行き詰ったときとかしんどかったです。

ど、テーマは違っても同じように悩んだり、それでも頑張っている友達が周りにたくさんいたので、励まし合いながらなんとかやり終えました。今思えば、しんどかったことよりも充実感の方が大きかったかもしれません。

やっておけば良かったことは？

それはありますね。学生時代は時間がいっぱいあったので、勉強も遊びも、もつとやっておけばよかったです。

特に一、二年生の頃に何か目標を決めて（資格など）取り組んでいたらもっと自分のためになったのかなあと。あと、英語の勉強をもつとしておけば良かったです。遊びは結構充実していたのですが、夏休みや春休みを利用して

もっと旅行したかったですね。

文系から理系へ 苦労もあつたんじやないですか？

三年生の時の実験などは、周りの理系の子が当たり前知っていることでも私は知らなかったりすることがあり、当たり前前のレベルについていくのが少し大変でした。しかし、周りの友達はみんないつでも教えてくれたし、先生も丁寧に教えてくださったので、そこまで大きな苦労はなかったです。

総科で学んだことはどう活かされていますか？

総科で学んだことが直接今の仕事と結びついてるか……と言われると少し応えづらいですが、ある問題点に対して色んな見方をしようとしたり、それを筋が通るようにまとめたりするなど、考え方がアプローチの仕方とかが活

仕事

かされているかなあと思いますが。

どのようなお仕事ですか？

今は、総務と品質管理の仕事を担当しています。

総務では、主に事務作業全般をこなしています。また社内報、JRグループ機関誌をそれぞれ二カ月に一回、年に四回のペースで執筆しています。

品質管理では、食品を扱っている会社なので、飲食店舗に対する衛生管理コンサルタント会社の衛生検査に立ち会うことで、衛生管理のあり方を追求したり、食品品の温度管理や賞味期限の管理が行き届いているかを、実際に店舗を回ってチェックしたりしています。自分も衛生管理について勉強し、指導します。食

の安全がますます重要視される今、ことが起きてからでは遅いので緊張感のある仕事ですね。

また、部署とは関係なく会社全体で取り組んでいる「サービスレベルアップ」のため、サービス向上プロジェクトの一員としても活動し、接客マナーはもちろん、笑顔の勉強なんかもしています。

仕事には慣れてきましたか？

実務に就いたのはこの三月からなんです。ですから、現場のことは色々勉強させていただきましたが、間接部門として現場に提案したり時には指示をしたり……という仕事は全くの初心者で、今はそういった「仕事の進め方」を先輩から教えていただいている最中です。

また、サービスは目に見えにくいものであるため、「サービスとは何か」を自分が理解するために本を読んで勉強し

たりもしています。

品質管理においても専門の知識が必要となってくるので、セミナーに行ったりして日々勉強をしているところで

管理の仕事は大変そうですが？

大変ですね。衛生環境向上のための店舗指導をするのですが、やはり言いたくないことや店舗にない決まりをこちらが要求したりすることもあるため、仕事とはいえつらい時もあります。ただ、指導した点がその次に行った際に改善、向上されていたときには自分のやっていることの意味を実感し、やりがいが増えますね。

就職活動はどのようにしていましたか？

ずっと就職活動のことを考えていたら疲れるので、就職活動をする日としない日を決めるなどして、メリハリをつ

けて生活していました。就職活動をしない日は、大学に行って友達としゃべってストレスを発散していました。

学生へ一言をお願いします

総科は、良くも悪くも自由なところ。自由な部分が大いことは、自分の可能性を試すためには絶対の場だと思いますが、逆に言えばあまり頑張らなくてもどうにかなるかもしれない。ですから、「自由」に甘えすぎることなく、むしろ利用して、やりたいことにどんどん挑戦してほしいですね。また、他学部と違って文理にとらわれない学部であるため、いろんな人と出会えるというのも総科ならではの。人との出会いを大切に、遊ぶときはしっかり遊んで大学生生活を思いっきり楽しんでください。

(担当 20生 長野 梨江子)
(取材協力 20生 竹之内 孝太)